障害児教材開発論

知的障害のある子どもの生活指導に用いる教材開発

発表番号　8
189-E7213
永野琴乃

対象児童の実態イメージ・指導目標

<u>対象児童の実態イメージ</u>

- 知的障害をもつ小学３年生の女子を想定
- 自分である程度の衣服の着脱はできる。
- ボタンの付いた服は、ボタンを自分で留めようとせず、大人がいつも留めている。
- 手先を使った細かい動きが苦手

<u>指導目標</u>

ボタンをつまむことやボタンを穴に通すことに慣れる

自立活動での位置づけ

自立活動

５　身体の動き

（3）日常生活に必要な基本動作に関すること

→食事，排泄，衣服の着脱，洗面，入浴などの身辺処理及び書字，描画等の学習のための動作などの基本動作を身に付けることができるようにすることを意味している。

・幼児児童生徒が意欲的に活動に取り組み，道具等の使用に慣れていけるよう，興味や関心がもてる内容や課題を工夫し，使いやすい適切な道具や素材に配慮することが大切である

・その上で，課題の難易度を考慮しながら，例えば，衣服の着脱では，ボタンはめの前にボタン外しから取り組むことや，ボタンや穴の大きさを徐々に小さくすること

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）pp86-87

開発した教材

教材①ボタンをいれよう

教材②つなげてあそぼう

教材の準備の仕方（教材①）

<u>準備物</u>

・タッパー（ふたが柔らかいもの）　　３つ
・ボタン　　大中小それぞれ５個くらい
・ペンカッター
・下敷き（カッターを使うときに使う）
・マスキングテープ
・ものさし
・ペン

<u>製作費用</u>

・タッパー　…　３つで100円

※タッパー以外は家にあるものを使いました。

教材の準備の仕方（教材①）

作り方

①カッターで、タッパーの蓋にボタンが入る大きさの穴をあける

少し力を入れるとボタンが入る程度の大きさ

②切り口にマスキングテープを貼る

③ボタンの大きさごとにつくる

教材の使い方（指導方法）（教材①）

＜使い方＞
ボタンをつまんで、タッパーの穴にボタンを入れる。

＜指導方法＞
・大きいボタン用から練習させる。
　①はじめは子どもの手を取って一緒に行う。
　②穴にボタンを半分入れ、続きを子どもにさせる。
　③一人でさせる。

・大きいボタンに慣れてきたら、中くらいのボタン用、小さいボタン用で同じように練習させる。

※ボタンの誤飲に注意！

工夫した点（教材①）

・布で練習する前に、ボタンを穴に入れることに慣れるよう
　タッパーの穴での練習を取り入れた。

・徐々に小さいボタンに慣れるように、大・中・小のボタンで練習
　できるような教材にした。

・ボタンが入ったことが分かるように、透明なタッパーを使用した。

・けが防止と穴の位置が分かるように、切り口にマスキングテープ
　を貼った。

教材の準備の仕方（教材②）

<u>準備物</u>

・ミシン
・裁縫セット（針・糸・裁ちばさみなど）
・フェルト
・ボタン　　大５個　小５個
・厚紙（お菓子の箱などでOK）
・はさみ
・ペンや鉛筆

<u>製作費用</u>

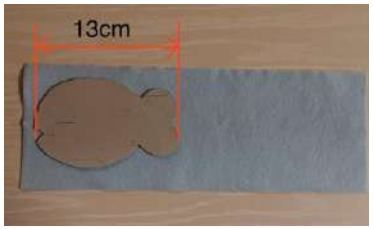
・フェルト　…　100均で購入できる
※フェルト以外は家にあるものを使いました。

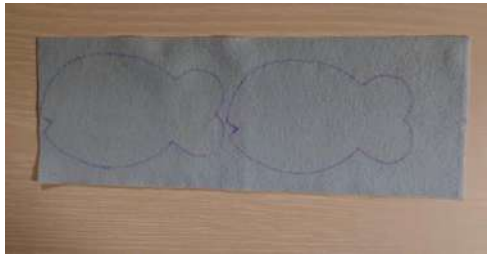
教材の準備の仕方（教材②）

作り方（魚：大きいボタン）

①厚紙で型紙をつくる

②フェルトに型をとる（２つ）





③②を切る

④③を重ねて、縁をミシンで縫う

⑤魚の目の部分にボタン穴をあける

⑥魚のしっぽの部分にボタン（大）をつける

今回はこれを
５匹つくりました。

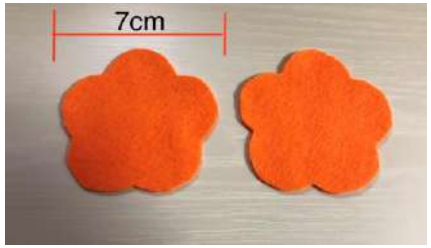
教材の準備の仕方（教材②）

作り方（花：小さいボタン）

①花びら：厚紙で型紙をつくる

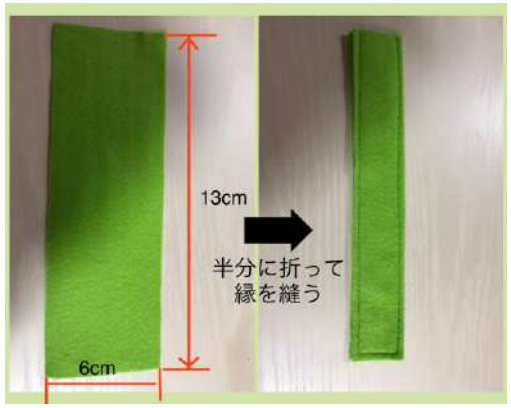
②花びら：フェルトに型をとる（２つ）

③花びら：②を切る



④くき：フェルトを13cm×６cmに切る

⑤くき：縦に半分に折って縁を縫う



⑥くき：ボタン（小）をつける

教材の準備の仕方（教材②）

<u>作り方（花：小さいボタン）（続き）</u>

⑦２枚の花びらでくきを挟んで、
　花びらの縁を縫う

⑧花びらの真ん中に、ボタン穴をあける

今回はこれを
５本つくりました。

教材の使い方（指導方法）（教材②）

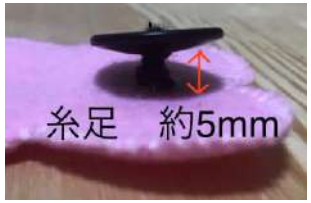
＜使い方＞
魚と花それぞれをボタンでつなぐ。

＜指導方法＞
・魚（大きいボタン）から練習させる
　①はじめは子どもの手を取って一緒に行う。
　②穴にボタンを半分入れ、続きを子どもにさせる。
　③一人でさせる。

・大きいボタンに慣れてきたら、花（小さいボタン）で同じように
　練習させる。

工夫した点（教材②）

・徐々に小さいボタンに慣れるように、２種類（魚・花）作った。
・丈夫にするために、布を２枚重ねた。
・ボタンをボタン穴に通しやすいように、ボタン穴を大きくした。
・ボタンをボタン穴に通しやすいように、糸足を長くした。
・持ちやすく、ボタンを通しやすい、やわらかいフェルトを使用した。
・つなぐことで花や魚の目ができるようにした。



かんむりやベルト、
腕輪にもなって楽しめる！

改善点

- 丈夫にするために２枚重ねにしたが、１枚にするとよりやわらかく、もっとボタンを通しやすくなるのではないかと思った。

評価基準(評価方法)

教材①

３種類の大きさのことなるボタンを、タッパーの穴に入れることができる。

教材②

魚を５匹、花を５本つなげることができる。

（大きいボタンを４回、小さいボタンを４回かけることができる。）

参考文献

- 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説
  自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）
- なにしてあそぶ？保育園で人気の手づくりおもちゃ
  ０・１・２歳児用―②布編